

令和3年度 第2回千葉県博物館協議会会議
配布資料一覧

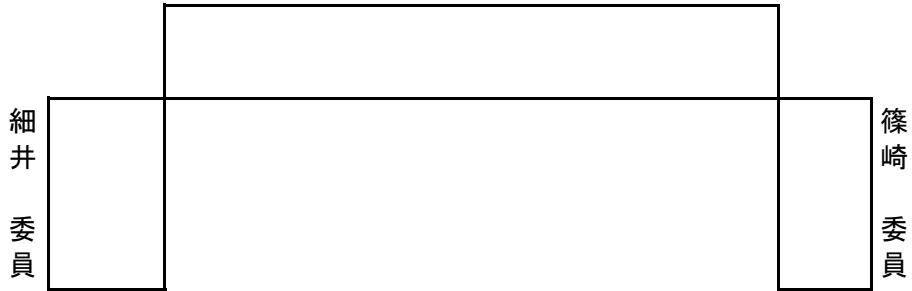
- ・ 座席表
- ・ 次第
- ・ 出席者名簿（協議会委員名簿、職員名簿）
- ・ 議事資料 県立博物館・美術館における地域との連携
（各館による説明資料）

参考資料

- ・ 博物館協議会傍聴要領
- ・ 千葉県立博物館今後の在り方概要

令和3年度 第2回千葉県博物館協議会座席表 座席表

議長：西田 委員

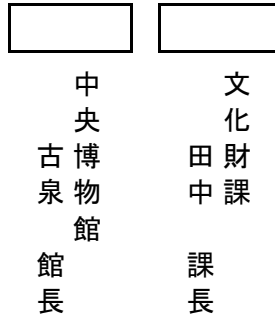


オンライン出席

- 高橋 委員 (副議長)
- 篠崎 委員
- 湯浅 委員
- 関沢 委員
- 米本 委員

オンライン出席

- 美術館 倉原 館長
- 現代産業科学館 鈴木輝人 館長
- 関宿城博物館 鈴木淳一 館長
- 房総のむら 望月 館長



令和3年度 第2回千葉県博物館協議会会議

日 時 令和3年12月23日(木)
午 後 午前10時～
会 場 千葉県立中央博物館会議室
(ズームによるオンライン)

次第

1 開会

2 あいさつ

中央博物館館長

3 行政説明

文化財課長

4 議事

(1) 県立博物館・美術館における地域連携について

(2) その他

5 諸連絡

6 閉会

千葉県博物館協議会委員 名簿

| No. | 領域 | 氏名 | 所属等 |
|-----|-------|--------------------|-----------------------------|
| 1 | 学校教育 | まえばやし のりこ 前林 典子 | 酒々井町立大室台小学校校長 |
| 2 | 学校教育 | ゆり ともこ 由利 知子 | 千葉市立幕張中学校校長 |
| 3 | 社会教育 | しのざき みちなり 篠崎 道成 | 市川市幸公民館館長 |
| 4 | 家庭教育 | ほそい かずみ 細井 和美 | 千葉県子ども会育成連合会専門委員 |
| 5 | 学識経験者 | ゆあさ はるひさ 湯浅 治久 | 専修大学文学部教授 |
| 6 | 学識経験者 | しばた よしき 柴田 良貴 | 筑波大学名誉教授 |
| 7 | 学識経験者 | にしだ はるふみ 西田 治文 | 中央大学理工学部教授 |
| 8 | 学識経験者 | せきざわ まゆみ 関沢 まゆみ | 国立歴史民俗博物館教授・副館長 |
| 9 | 学識経験者 | たかはし まさし 高橋 正 | 東邦大学名誉教授 |
| 10 | 学識経験者 | よねもと まこと 米本 信 | 一般財団法人 NHK サービスセンター 元理事長 |

(令和2年4月1日～令和4年3月31日)

令和3年度 第2回千葉県博物館協議会会議

千葉県立美術館・博物館長

| 館名 | 職名 | 氏名 |
|-------------|----|-------|
| 千葉県立美術館 | 館長 | 倉原 敏哉 |
| 千葉県立中央博物館 | 館長 | 古泉 弘志 |
| 千葉県立現代産業科学館 | 館長 | 鈴木 輝人 |
| 千葉県立関宿城博物館 | 館長 | 鈴木 淳一 |
| 千葉県立房総のむら | 館長 | 望月 賢二 |

千葉県教育委員会

| 部課名 | 職名 | 氏名 |
|-----------|-----------|--------|
| 教育振興部文化財課 | 課長 | 田中 文昭 |
| 教育振興部文化財課 | 主幹兼学芸振興室長 | 立和名 明美 |

千葉県立美術館・博物館職員

| 館名 | 職名 | 氏名 |
|-------------|------|--------|
| 千葉県立美術館 | 普及課長 | 鈴木 敬子 |
| 千葉県立中央博物館 | 副館長 | 植野 英夫 |
| 千葉県立現代産業科学館 | 普及課長 | 植野 百代 |
| 千葉県立現代産業科学館 | 学芸課長 | 竹内 洋子 |
| 千葉県立関宿城博物館 | 学芸課長 | 尾崎 晃 |
| 千葉県立房総のむら | 副館長 | 大森 けい子 |

事務局

| 館名 | 職名 | 氏名 |
|-----------|--------|-------|
| 千葉県立中央博物館 | 企画調整課長 | 島立 理子 |
| | 上席研究員 | 相原 康平 |
| | 上席研究員 | 吹春 俊光 |
| | 研究員 | 水野 大樹 |
| | 研究員 | 石井 友菜 |

議事資料

「県立博物館・美術館における地域との連携」 (各館による説明資料)

| | | | |
|----------|------------|-------|---|
| ●県立美術館 | ・・・・・・・・・・ | 2～4 | 頁 |
| ●中央博物館 | ・・・・・・・・・・ | 5～8 | |
| ●現代産業科学館 | ・・・・・・・・・・ | 9～11 | |
| ●関宿城博物館 | ・・・・・・・・・・ | 12 | |
| ●県立房総のむら | ・・・・・・・・・・ | 13～14 | |

令和3年度第2回千葉県博物館協議会
「県立博物館・美術館における地域との連携」

●県立美術館の取り組み

1 地域との連携・支援

(1) 自治体（市町村など）等との連携

①千葉県移動美術館

- ・昭和52（1976）年度からほぼ毎年度実施（令和3年度で45回）
- ・より広範な地域の県民に美術鑑賞の機会を提供し、地域文化の振興に寄与するため、所蔵作品展を、県内市町村施設を会場に開催

②展覧会に関連した地域振興イベントの開催

- ・展覧会に関連した地域を紹介する物販やコンサートなどのイベントを開催
- ・「KATORI special daysーもっと香取が好きになるー」（平成27年度）
 - ・特別展「香取神宮ー神に捧げた美ー」に併せて開催。
 - ・香取市商工観光課、香取市教育委員会、地元観光協会等との連携

③「成田アート博覧会」への支援

- ・平成24（2012）年に文化庁の文化芸術振興費補助金「文化を活かした観光振興・地域活性化事業」により本格化したアートプロジェクト。
- ・成田山表参道の仲之町商店街で成田市内の小中学校生徒の作品を展示するに当たり、展示指導を実施
- ・成田市教育委員会、成田市観光協会、仲町街づくり協議会などと連携

(2) 社会教育施設（公民館・図書館など）との連携

①公民館との連携

- ・船橋市や野田市などの公民館と連携して、美術館や美術について学ぶ連続講座の企画・実施（平成25～28年度、令和3年度）

②図書館との連携

- ・県立図書館や袖ヶ浦市の図書館と連携して、ワークショップの企画・実施（平成25・27年度）

(3) 近隣地域・施設との連携

①千葉市みなと活性化協議会との連携

- ・千葉市が設置する「みなとオアシス」区域の活性化を目的とした官民団体「千葉市みなと活性化協議会」にオブザーバー参加（情報交換、イベント企画会議等への参加）
- ・千葉みなとGWポートフェスタ（5月）、千葉湊大漁まつり（11月）へのワークショップブースの出展

②オークラ千葉ホテルとの連携

- ・開催中の展覧会に関連した特別メニュー「アートでランチ」の企画・提供

(随時)

- ・ホテルの定期広報誌での展覧会紹介
- ・ホテル宿泊客のスタンプラリーへの参画 (スタンプの設置)

③千葉ポートパークとの連携

- ・千葉ポートパーク主催イベントでの来館者サービスの連携
- ・「大恐竜パーク in 千葉ポート」(美術館入場券半券提示者に入場料割引、恐竜展半券提示者に絵はがきプレゼント) (令和3年度 151人)

(4) 交通機関等との連携

①千葉都市モノレールとの連携

- ・千葉都市モノレール千葉駅構内やモノレール車庫でのワークショップ開催や、駅構内でのワークショップ参加者の作品展示 (平成15年度からほぼ毎年度1回開催)
- ・千葉都市モノレール株式会社主催の「ちばモノレール祭り」(例年10月開催) へのワークショップブースの出展 (毎年度出展 令和元年度参加者 約150人)

②JR東日本千葉支社との連携

- ・JR東日本千葉支社と千葉市観光協会主催の「えきぷらっとウォーク in 千葉えきまつり」のチェックポイントに参画 (展覧会入場者に絵はがきプレゼント) (令和2年度～ 令和3年度 60人)

③千葉海浜交通バスとの連携

- ・千葉海浜交通バスの一乗車券特典ポイントに参画 (一日乗車券提示者にオリジナルしおりプレゼント) (令和3年度～)

(5) 民間企業・団体等との連携

①千葉市観光協会との連携

- ・千葉市観光協会発行のガイドブック提示者にオリジナルしおりプレゼント (令和3年度～)

②ペリエ千葉との連携

- ・JR千葉駅直結のショッピングセンター「ペリエ千葉」(株式会社千葉ステーションビル) と展覧会 (「魔法の手ーロッカクアヤコ作品展」) の広報活動で連携 (千葉駅改札口付近の大型バナー、デジタルサイネージ広告スペースの提供、ペリエ千葉内飲食店でのコースターなどプレゼント) (令和2年度)

③JAF (一般社団法人日本自動車連盟) との連携

- ・JAF会員証提示者への絵はがきプレゼント (令和2年度 137人)

2 市民団体等との連携・支援

(1) 県内美術団体への支援

①県内美術団体による団体展

- ・ 県域を対象に活動している美術団体に、成果発表の場として展示室を提供
(令和3年度 85団体)

(2) 千葉県立美術館友の会との連携

- ・ 昭和50年に発足(令和3年度会員数192人)
- ・ 実技講座やワークショップの共催等の連携事業の実施

●県立中央博物館の取り組み

1 地域との連携・支援

(1) 自治体（市町村など）との連携

①君津市との連携

平成15年（2003）から「フィールドミュージアム事業」を連携し展開。

○平成30年度（2018）の実績

- ・君津市立三島小学校で「三島小学校教室博物館」（延べ53日間開館）
- ・君津市清和公民館で出張展示を開催（10月20日～21日）
- ・観察会「山の学校」を6回、その他の観察会を3回開催
- ・君津市教育委員会との連携で「君津市スクールミュージアム」を4回実施
- ・NPO法人いきいき清和との連携で「めざせ!!田んぼのマイスター」を8回実施

○令和3年度（2021）

・フィールドミュージアム事業の一環として、また東京大学千葉演習林との協定に基づき、調査・研究活動を演習林と共同で実施。11月には演習林で採集された昆虫を、ミニトピックス展「珍しい雄のナナフシモドキ」として展示。

②銚子市との連携

・令和3年度に夏の展示「うみ鳥つぶー海鳥とめぐる 島の旅・半島の旅ー」として本館で実施した展示を、銚子市地域交流センター（銚子ジオパーク）で巡回展示（令和3年12月4日～令和4年2月27日）。

③旭市・山武郡九十九里町等との連携

・令和2・3年度に開催した「九十九里浜の自然誌」を、海の駅九十九里（銚子市）、いいおかユートピアセンター（旭市飯岡）、海の駅九十九里（山武郡九十九里町）において巡回展示（令和3年10月2日～令和4年1月26日）。

④勝浦市との連携

・勝浦市内の全小学校に「海の博物館」の常設展示を設置（令和2年度から）。

・分館海の博物館として毎年開催される「勝浦港カツオまつり」に参加。

・分館海の博物館に「朝市」を招致（令和3年夏）。

・分館海の博物館職員が勝浦市文化財審議会委員、勝浦市浜勝浦川浄化対策推進協議会委員等として連携。

⑤香取市との連携

・大利根分館では「道の駅・川の駅 水の郷さわら」において、出張写真展「水郷の原風景」（令和元年度）、「古写真にみる佐原の大祭」（令和2年度）を実施。また令和3年は大利根分館で、企画展「ちばらきー千葉県と茨城県の境ー」として香取市にもスポットをあてた展示を開催。

・大利根分館では「昭和の名車大集合」として、香取市佐原また地域市民と共同し、令和3年度で第10回を迎える展示会を開催。

⑥大多喜町との連携

・大多喜城分館を会場として「大多喜さくらまつり」を大多喜町と連携し毎年開催（令和3年度は中止）。

(2) 社会教育施設（公民館・図書館など）との連携

①「博図公」事業

平成26年度（2014）～令和元年度（2019）、文化庁の文化芸術振興費補助金による「博物館・図書館・公民館との連携による地域文化発信事業」という事業を実施。

※千葉県博図公連携事業実行委員会：県立中央博物館、県立西部図書館、八千代市立郷土博物館、袖ヶ浦市郷土博物館、君津市教育委員会

○平成26年度～28年度（2014～2016）

平成26年度は地域連携で県内の不思議な伝承や妖怪情報など「もののけ情報」として収集。その成果を基に平成27年に中央博で企画展「妖怪と出会う夏 in Chiba 2015」開催した。平成28年度は、各館連携でフォーラムを開催した。

○平成29～31年度（2017～2019）

平成29年度は「企画展きのこワンダーランド」（前期・後期）を開催。中央博で作成した展示（前期分）を袖ヶ浦市郷土博物館へ運び「企画展 II、きのこの住人・きのこむしーきのこと虫たちの不思議なくらし」として開催した。また展示と関連する巡回展示キット「物語の中のきのこ展示パネル」を作成し県内外で巡回し地域連携事業を実施した。平成30年度と31年度は、次の図書館との連携事業として展開した。

②図書館との連携

○平成30年度（2019）：県内の図書館を中心に巡回展示「写真でつづる千葉県と鉄道」を実施（「博図公」事業の一環）。公民館を含む県内28施設で実施。船橋市立図書館では、新たな企画「図書館資料と写真で知る『千葉県と鉄道』」として展開。

○令和元年度（平成31年度）（2019）：県立中央図書館と連携して講演会の実施。企画展毎のブックリストの作成・配布。

○令和3年度（2021）：特別展「バラのすべて」に関連して、トークイベント「バラの図鑑ができるまで」を開催。

③さわやかちば県民プラザ（柏市）との連携

中央博へ来館することが難しい方々を対象という意図のもと、中央博より遠方に位置する施設で展示会を開催し、できるだけ中央博の活動を県民に還元できる

ようにしている。

○令和3年度(2021)：県民プラザ主催の「ちばのお宝再発見」(毎年開催)において「チバニアン」のパネル展を実施。

○今年度中に県民プラザ内に中央博物館の情報コーナーを設置予定

④ 県内の社会教育等の事業連携に関する意見交換会の実施

県立中央図書館が主催する行事で、中央博からも職員を派遣し、事業連携に関する意見交換を継続的に実施している。

⑤ 令和3年度特別展「バラのすべて」関連事業

「谷津バラ園」、「京成バラ園」など県内10箇所のバラ関連施設と連携しスタンプラリーを実施。

(3) 商業施設(イオン、アリオなど)との連携

①アリオ蘇我との共同事業による連携

アリオ蘇我(千葉市)という中央博の近くの複合商業施設で、平成28年(2016)から令和2年(2020)まで、「アリオ博イベント」や「中央博の課科外授業」等のタイトルで、ハンズオンやクイズ大会など年間6~7回のイベントを開催し、該当年度の企画展や収蔵資料の紹介をおこなう行事や展示会を連携事業としておこなっている。

(新型コロナにより、令和2年は展示のみ、令和3年は現在実施の可否を検討中)

②イオンリテール(株)との連携

千葉県とイオンリテール(株)は、平成24年(2012)2月14日から毎年包括協定を締結し、千産千消の推進・千葉県産品の販売促進をはじめとする協働活動をおこなっている。その一環として、農林水産部流通販売課・健康福祉部子育て支援課とともに、毎年津田沼イオンで開催される「千葉県産フェア」に参加している。令和3年(2021)は6月17日から20日まで千葉県教育庁文化財課主導のもと博物館の活動を紹介する活動をおこなった。

③そごう百貨店との連携

そごう百貨店(千葉市)の展示スペースに、文化財課の主導のもと定期的に催事情報などの掲示をおこない、またパンフレットの配布などもおこなっている。

(4) 観光団体との連携

①日本自動車連盟(JAF)との協定

令和3年(2021)から中央博は一般社団法人日本自動車連盟(JAF)と協定をむすんだ(1年ごとの自動延長)。JAF主催のウェブサイトやメールマガジン等の

宣伝媒体に博物館の広報を掲載すると同時に、JAF 会員対象に優待サービス（来館時に記念品を進呈）をおこなう内容の協定である（展示等のイベントごとに実施の有無を決めることができる）。令和 3 年（2021）の特別展「バラのすべて」では、来館した約 450 名の会員に、来館時に特別展仕様のマグネットや絵はがきセットを配付した。

2 市民団体との連携・支援

（1）民間の愛好団体との連携

①自然誌フェスタ

一般来館者を対象に、各団体の活動と房総の自然と歴史をそれぞれの活動内容として紹介するイベント。11 月 3 日の無料日に開催。令和元年（2019）は次の 11 団体が参加した。（参加：千葉県地学教育研究会、中央博サークル歴史サークル、自然保護課千葉県生物多様性センター、千葉県昆虫談話会、市宿おばあちゃんの畑、千葉菌類談話会、千葉港ポートパークかもめクリーン隊、房総貝類談話会、千葉県生物学会、中央博サークル ヒスイの会 [順不同]）。（令和 2 年・3 年は新型コロナで中止）

②千葉県生物学会

千葉県生物学会は昭和 23 年（1948）に設立された房総の自然を調査研究する民間団体。千葉県立中央博物館の設立にあたって「自然誌資料調査会」が組織されるとその実質的な担い手となり、中央博物館の基礎資料を収集する役割を担当した。昭和 24 年から『千葉生物誌』を発行し、房総の生物情報を記録し続けている（現在 145 号）。様々な生物の観察会を開催し、小・中・高生による児童生徒生物研究発表会（2021 年は第 74 回）を毎年主催する等、県内の生物教育に大きな役割を果たしている。

③民間の各種愛好団体（自然・地学・歴史などの各団体）

房総地学会、房総石造文化財研究会などを含む自然誌フェスタ（①）に参加するような多数の団体が、千葉県民を対象として博物館が各団体の活動の場となっている。博物館が各団体の学習の結節点となり、各団体の会員は房総についての知識をふかめ、博物館にはその各団体の活動や研究の成果が、資料や調査データとなってもどってくるというように、博物館にはなくてはならない存在となっている。例えば、千葉菌類談話会の千葉市内での定例観察会で採集された標本が、テングタケ属を専門とする研究者に送られ、「アオミドリタマゴテングタケ」という新種として記載され、博物館にそのタイプ標本が保管されたという例もある。

●県立現代産業科学館の取り組み

1 地域との連携・支援

(1) 県との連携

①生涯学習課 「夢チャレンジ体験スクール」

- ・平成 19 年度～毎年実施（令和 2、3 年度はコロナのため中止）
当館を会場に、館職員が講師を務め小学生向けに科学工作を実施。

②文化財課 「土器ッと古代宅配便」

- ・平成 18 年度～毎年実施（令和 2、3 年度はコロナのため中止）
当館を会場に同課から講師を招聘し、勾玉作りなどの体験会を実施。

③県民・生活文化課 「ちばわくわくフェスタ」

- ・平成 28 年度～毎年参加（令和 2、3 年度はコロナのため中止）
幕張メッセを会場に、館職員によるワークショップを開催。

④県総合教育センター 「小学校理数教育研修」

- ・平成 21 年度～毎年実施（令和 2 年度はコロナのため中止）
当館を会場に、館職員が講師を務め、小学校の理数教育に係る指導内容や指導方法についての実践的な研修会を開催。

(2) 社会教育施設（公民館・図書館など）との連携

①出張講座

- ・平成 17 年度～毎年実施（令和 2 年度はコロナのため中止。令和 3 年度は学校にのみオンラインによる科学工作教室を開催中）
- ・学校や科学クラブ活動などから依頼を受け、依頼先に出向き科学工作を実施。社会教育施設では県内各地の公民館（市民センター等を含む）、図書館、青年の家、博物館、さわやかちば県民プラザなどからの依頼がある。

表 1 過去 10 年間の実施状況（数値は回数）

| 年度 | 公民館 | 図書館 | 青年の家 | 博物館 | 県民プラザ | 学校ほか |
|----|-----|-----|------|-----|-------|------|
| 23 | 4 | | 1 | | 2 | 4 |
| 24 | 7 | | 1 | | 2 | 4 |
| 25 | 9 | | | | 2 | 10 |
| 26 | 7 | | | | 1 | 9 |
| 27 | 8 | | | | | 11 |
| 28 | 6 | | | | 1 | 16 |
| 29 | 12 | 1 | | 2 | 1 | 20 |
| 30 | 14 | 1 | | 2 | 1 | 18 |
| 1 | 15 | 2 | | 2 | | 31 |
| 2 | 中 止 | | | | | |

②市川市中央図書館との連携「絵本の読み聞かせ」

- ・平成 28 年度～（令和 2、3 年度はコロナのため中止）
- ・当館の図書室を利用した幼児・小学校低学年向けの事業。市川市中央図書館司書と協議し、開催中の展示などに即したテーマを設定して絵本や紙芝居を選定。図書室内で司書らによる読み聞かせ会を開催。当日は、テーマに即した市川市中央図書館所蔵の「おすすめ」絵本の展示も併せて実施。

(3) 市川商工会議所との連携「いちかわ産フェスタ」の開催

- ・平成 17 年度～毎年開催（令和元年度からコロナの影響で中止）
- ・当館を会場にした商工会議所との連携イベント。市川市内の商業・工業・農業・漁業等の各事業者が、展示や出店を行い、市内の産業を紹介。
- ・当館を「テクノモール」「プレイモール」「ショッピングモール」「地産地消モール」「カルチャーモール」のエリアに分け、特色ある展示や発表、販売などを行っている。館施設内・外でのべ数万人程度が訪れる地域ぐるみのイベントとなっている。

(4) 近隣施設との連携「鬼高さんしゃ祭」の開催

- ・平成 7～30 年度まで（令和元年度以降は、開催休止中）
- ・県立機関である当館と、メディアパーク市川（市川市生涯学習センター）、民間企業であるニッケコルトンプラザは、施設が隣接していることから、共有すべき案件についての情報交換会（3 者協議会）を隔月ごとに開催している。「鬼高さんしゃ祭」は、三者の合同事業とし平成 7 年度から 30 年度まで 24 年間にわたり開催。
- ・当館では地域の教育および文化振興に寄与することを目的とし、「ロボット操縦体験」「ガラスアクセサリー作り」など様々なワークショップの他、3 者共通のスタンプラリーなどを行った。

(5) 千葉土建組合市川支部との連携「いちかわ土建まつり」の開催

- ・令和元年度～（令和 2、3 年度はコロナのため中止）
- ・千葉土建一般労働組合市川支部と協力し、建設業に係る技術や体験をとおし、「モノ作り」への興味・関心を高めるイベントを開催。

2 各種団体との連携・支援

(1) 千葉県立現代産業科学館展示・運営協力会との連携

- ・平成 6 年度～
- ・「千葉県立現代産業科学館展示・運営協力会」は、当館の展示及びこれに関わる教育普及・調査研究等の活動をより発展させるため、館の活動の趣旨に賛同し、専門的知識を有する団体及び個人が、館の行う科学技術の普及に対し、館に対し支援及び助言を行うことを目的として、平成 6 年度に発足。現在の会員は企業、大学、研究機関、個人等合わせて 100 を数える。また、会を総理する理事には、千葉県産業支援技術研究所、キッコーマン(株)、JFE スチール(株)、日本製鉄(株)東日本製鉄所君津地区、双葉電子工業(株)などの 14 の県立機関や企業、研究機関、大学関係者があたる。
- ・主な活動として、常設展示等への助言・支援をはじめ、会員が企画・運営を行う展示会・実験工作教室などがある。また、当館が「伝えたい千葉の産業技術

100選」※を選定する際に意見を聴取している。

※「伝えたい千葉の産業技術 100 選」

- ・平成 27 年度～令和 2 年度までで 56 の産業技術を選定。
- ・県内の優れた産業技術について、顕著な成果や地域との関わりを次世代に引き継ぐために様々な分野の産業技術を選定し、地域の産業に関する興味・関心や理解に結び付ける資料を作成。館内への掲示やホームページによる紹介を行うことにより、産業技術に関する地域のアイデンティティを醸成する。

(2) 発明協会との連携

①公益社団法人発明協会との連携

- ・平成 24 年度～毎年開催
「全日本学生児童発明くふう展」特別賞受賞作品の展示
- ・千葉県在住の児童生徒による同展特別賞受賞作品を館内に展示。地域文化振興に資するとともに来館者の科学に対する興味・関心を高めることを目的としている。

②一般社団法人千葉県発明協会との連携

- ・平成 30 年度～（令和 2 年・3 年は新型コロナで中止）
「少年少女発明クラブ作品展」の開催
- ・千葉県発明協会と連携し、県内 7 つの少年少女発明クラブ（千葉市少年少女科学クラブ、旭少年少女発明クラブ、松戸市少年少女発明クラブ、佐倉少年少女発明クラブ、八匝少年少女発明クラブ、茂原少年少女発明クラブ、市原・袖ヶ浦少年少女発明クラブ）に所属する児童生徒の作品を当館内に展示し、サイエンスドームにおいて優秀作品の表彰を行う。併せて協会関係者による来館者向けワークショップも開催。

●県立関宿城博物館の取り組み

1 地域との連携・支援

(1) 自治体（市町村など）との連携

○野田市

商工観光課

関宿城さくらまつりへの参加 例年（令和2～3年度は中止）

観光ガイドブックの作成 平成31年度

市役所HPに撮影協力（ドローン撮影） 平成31年度

関宿商工会 関宿城百景写真展の審査・協力と開催 平成13年度～

野田ガイドの会 展示案内への協力 例年（令和2～3年度は中止）

○茨城県境町 教育委員会 教職員研修への協力 ～令和元年度

○(国交省)江戸川河川事務所

川の観測情報ライブカメラの設置 平成12年度～

川の情報誌の配布 例年

新任職員研修にて展示案内 ～令和元年

○川のまちネットワーク（野田市・茨城県五霞町・境町）

共同HPの作成・観光客の動向調査 平成31年度～

○川のまちネットワーク（野田市・茨城県五霞町・茨城県境町）

○館の事業として「地域とともに歩む事業」「地域を知る事業」

(2) 社会教育施設（公民館・図書館など）との連携

○関宿公民館 「前期公民館講座」 平成30年度

○せきやど図書館 「関宿歴史講座」 ～令和3年度

○さわやかちば県民プラザ

パネル展「戦国期から江戸期の関宿」 平成26年度

出前展示「千葉のお宝再発見」 令和元年度

○彩の国いきがい大学 講演 平成27年度

(3) 観光団体との連携

○はとバスツアー

川越市～龍Q館（春日部市）～当館の観光ツアーに協力・案内 平成30年度

2 市民団体との連携・支援

○ミツカン水の文化センター「里山文化塾」講演と周辺施設案内 平成27年度

○木下まち育て塾「親子で学ぶ利根川と行き交う船の歴史」講演 平成28年度

○日本ES開発協会「歴史講座」講演 令和元年度

○マンガ銚子の歴史刊行会「銚子の歴史講演会」 令和元年度

●県立房総のむらの取り組み（平成27年度以降分）

1 地域との連携・支援

（1）自治体（市町村など）との連携

ア 栄町教育委員会

- ・町主催の自然体験活動プログラム「ドラム自然楽校」の一部を館内で継続して実施（H27～R元）。

町内の小学生を対象に野菜作りや米作りなどの体験を実施。

イ 佐倉・成田・香取・銚子市

- ・日本遺産「北総四都市江戸紀行」のガイドンス施設として『日本遺産北総四都市デー』を開催（R元～）。

ウ 出前講座の実施

- ・印西市の放課後こども教室（H27・28）
- ・千葉市稲毛福祉センター（H29）
- ・茨城県環境科学センター（H30・R元）

（2）社会教育施設（公民館・図書館）との連携

ア 出前講座の実施

- ・青葉の森公園芸術文化ホール（H27～30）
- ・船橋県民の森（H29～R元）
- ・佐倉市和田公民館（H29）
- ・山武市成東中央公民館（H29）

（3）商業施設（イオン、アリオなど）との連携

ア イオンリテール（株）

- ・千葉県とイオンリテール（株）は包括協定を締結し、千産千消の推進や千葉県産品の販売促進をはじめとする協働活動をおこなっている。その一環として、イオンモール津田沼で実施される「千葉県産フェア」に平成30年度から参加。また、イオンモール成田での出張展示も実施（R2）。

（4）観光団体・観光施設との連携

ア 日本自動車連盟（JAF）

- ・令和元年度に一般社団法人日本自動車連盟（JAF）と協定を締結。JAFのウェブサイトや機関誌等の宣伝媒体に博物館の広報を掲載するとともに、会員対象に優待サービスを実施

イ ホテル日航成田

- ・令和3年6月に覚書を締結し、ホテルロビーでの展示や宿泊客への優待サ

- ービスを実施
- ウ JR と共同
 - ・日帰りツアー商品を造成（H24 年度から不定期実施）
- エ JR バス関東と共同
 - ・日帰りツアー商品を造成、覚書を締結（1 年単位の自動継続）。

2 市民団体等との連携・支援

（1）民間の愛好団体との連携

- ア 千葉県昆虫談話会
 - ・昆虫の生態について、むらの昆虫調査を実施(H26～30)
調査の成果をもとに平成 30 年度にトピックス展「むらの昆虫」を開催。

（2）民間企業との連携

- ア 観光会社
 - ・旅行会社との協力により龍角寺古墳群を巡るツアーを実施。長柄町長柄横穴群→芝山町芝山古墳群→龍角寺古墳群を巡るツアーなどを実施。（H30）

（3）千葉の民俗芸能における関係団体との連携

- ア 鶴峰八幡の神楽
 - ・市原市中高根で現在も行われている神楽の在り方をパネルで紹介するとともに神楽の実物資料を展示。（R3）
- イ 登戸の神楽囃子
 - ・千葉市登戸の登渡神社の祭礼などで奉納される祭囃子についての実物資料を展示。（R3）
- ウ 北之幸谷の獅子舞
 - ・東金市北之幸谷にある稲荷神社の氏子たちで伝承される獅子神楽についての実物資料を展示。（R3）
- エ おらんだ楽隊
 - ・香取市扇島地区で伝承される古来の伝統を踏まえた「囃子」を上演。（R2）

（4）その他

- ア 千葉県ユニセフ協会
 - ・房総のむらとその周辺をウォーキングして歴史と自然を学ぶ「ユニセフ・ラブウォーク」を継続して実施。（H22～）

博物館協議会傍聴要領

傍聴手続

- (1) 傍聴希望者は、会議開始時刻の 30 分前から 20 分前までの間に、会場受付で氏名等を記入し、事務局の指示に従って会議の会場に入室する。
- (2) 傍聴の定員は 10 名とし、定員を越えた場合は抽選とします。

会議を傍聴する場合に守っていただく事項

- (1) 会議開催中は、静粛に傍聴し、拍手その他の方法により、言論に対して公然と可否を表明しないこと。
- (2) 騒ぎ立てる等、議事を妨害しないこと。
- (3) 会場において、飲食又は喫煙を行わないこと。
- (4) 会場において、写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、議長の許可を得た場合はこの限りではない。
- (5) その他会場の秩序を乱し、会議の支障となる行為をしないこと。

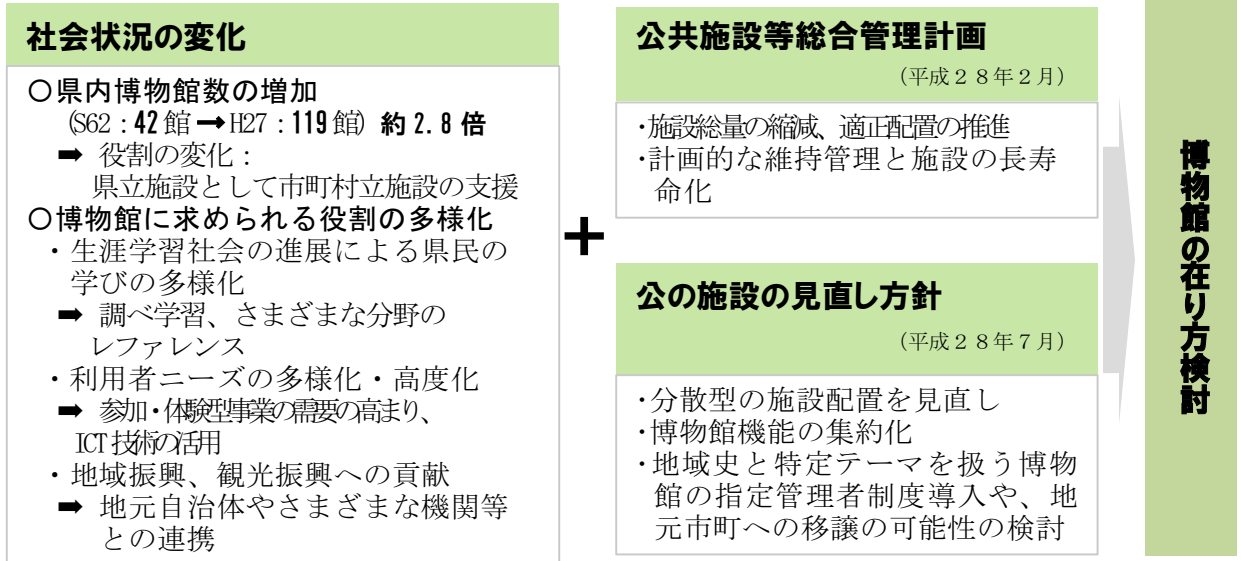
会議の秩序の維持

- (1) 傍聴者は、会議を傍聴する場合は、係員の指示に従うこと。
- (2) 傍聴者が会議を傍聴する場合に上記事項に従わない場合は、退場とすることがある。

千葉県立博物館今後の在り方概要

【参考】

■ 在り方検討の背景



■ 県立博物館をめぐる現状と課題、強化すべき機能

| | 調査・研究 | 資料の収集・保管 | 展 示 | 教育・普及 |
|-----------|--|---|---|---|
| 現状 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域館では設置目的、専門性に基づく調査・研究。 ・中央博物館では科学研究費補助金を活用した研究。 | <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県博物館協会の博物館資料救済ネットワークの拠点。 ・収蔵資料の自然資料が 87.3%、収蔵庫の狭隘化。 | <ul style="list-style-type: none"> ・入場者の多くは高齢者、若年層が少ない。 ・常設展示が未更新。 ・市町村立博物館への支援体制が未整備。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習キットや独自の学習プログラムを活用した学校教育支援。 ・立地する周辺の地域・観光振興との連携。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・専門職員の技術継承、後継者育成。 ・一層の研究成果の公開、県民へのわかりやすい還元。 ・県民参画の共同研究の充実。 | <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵スペースの確保。 ・県域の人文系資料の収集が不十分。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる世代の利用者拡大。 ・常設展示の再構成と、ICT技術の導入。 ・市町村立博物館への安定的な支援・協力体制の整備。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けプログラムや、時事的話題に即応した情報提供。 ・連携・支援地域の全県的な広がり。 |

■ これからの県立博物館

○ 県立博物館の役割

- ・全県域を俯瞰した資料収集・保管、調査・研究、教育・普及等を行う。
- ・県の魅力、県民の誇りとなるような文化・自然等の発信・紹介に努める。

○ 県立博物館の機能集約等

- ・効率的かつ高度化した博物館資料の一元管理を進める。
- ・地域史と特定テーマを扱う博物館は、長期的な視点で、地元での活用を含め、現状の県運営の在り方を見直す。

- ・以上を踏まえ、全県域を俯瞰する以下の博物館について機能強化を進める。
 - 中央博物館：専門職員と博物館資料を集約、常設展示のリニューアル、収蔵庫の充実、県直営の継続
分館海の博物館：現在地で、県を取り巻く海に関する研究機能等を発揮するため県直営の継続
 - 房総のむら：指定管理者制度で運営する県立博物館として存続
 - 美術館：活性化を図りながら県立唯一の美術館として県直営の継続

■ 中央博物館への機能集約と強化について

①調査・学術研究

- ・専門職員の集約化による自然科学系、人文科学系及び両者を融合した学術研究。
- ・広域的なテーマ、又は県民参加・協働型の調査・研究。
- ・研究成果のわかりやすく迅速な公開・発信から新たな知の創造へ。

②資料の収集・保管

- ・自然科学、人文科学双方の研究に関連した資料の収集。
- ・資料の一元管理とデジタル化による文化資源情報充実。

③展示等

- ・人文科学系分野の充実と、自然科学系の優れた部分を生かしつつ、両者を合わせた総合展示室へリニューアル。
- ・ミュージアムショップとレストラン等の魅力アップ。
- ・「いつでも新しく楽しく学べる展示」と、県内外へのわかりやすく魅力的な展示と発信。

④教育・普及

- ・様々な年代の県民の学び・レファレンスへの迅速で充実した対応。
- ・県民ニーズに基づいた県の魅力、県民の誇りとなるテーマの講座等。

⑤支援

- ・県内の市町村立博物館等に対する調査・研究、資料活用、教育普及面での支援。
- ・博物館資料救済ネットワークにおけるセンター館としての情報収集・資料救済。
- ・大学、企業等を含めた幅広い連携・協力のもとでの支援。

中央博物館は「知の創造」拠点、県内の博物館活動の拠点としての役割を強化する。

「知の創造」とは、博物館資料の活用に加え、フィールドワークや実験等に基づく専門領域又は分野を横断した調査・研究等により、千葉県の自然、歴史、産業、文化等に関する新たな知見を生み出すことであり、その成果を広く公開・発信することで、さらに新たな知へとつなげていくものです。

■ 地域史と特定テーマを扱う博物館について

○地元での利活用を優先させることとし、県による指定管理者制度は導入しない。

(1) 中央博物館大利根分館（香取市）

- ・下半期を休館とする運営や、施設老朽化の状況、地元市での利活用の意向がないことから廃止もやむをえない。地元由来の博物館資料については、地元での活用について引き続き協議を進める。

(2) 中央博物館大多喜城分館（大多喜町）

- ・地域振興、観光振興等の面でも活用できる可能性があり、地元町での活用に向けた協議を進める。耐震性に課題があるため、早期に結論を出す必要がある。

(3) 関宿城博物館（野田市）

- ・地域振興、観光振興等の面でも活用できる可能性があり、地元市での活用に向けた協議を進める。

(4) 現代産業科学館（市川市）

- ・地元市で活用したい意向があることから、中核部分について市が継承し、引き続き一般利用に供することを前提に、継承すべき内容や活用の方法等について協議を進める。